

協働に関する  
学生団体アンケート調査  
報告書

2025年（令和7年）10月  
金沢市市民協働推進課  
協働をすすめる市民会議

## I 調査の概要

### (1) 調査の目的

金沢市協働推進計画の改訂にあたり、計画改訂の基礎資料とするとともに、今後の市民活動の促進や協働の推進に向けた取組の参考とするため。

### (2) 調査方法

電子申請フォームによるアンケート調査

### (3) 調査期間

令和7年8月14日（木）～ 令和7年8月29日（金）

### (4) 調査対象

市民協働推進課事業に関連する学生団体 39団体

### (5) 回答状況

24団体（回収率約61.5%）

## Ⅱ 調査結果

### 団体の状況について

問1. 団体名の概要について教えてください。

問2. 活動分野について、あてはまるものすべてを選んでください。(複数回答可)

回答	回答数	割合
保健・医療・福祉	1	4.2%
社会教育	8	33.3%
まちづくり	14	58.3%
学術・文化・芸術・スポーツ	8	33.3%
観光振興	3	12.5%
農山漁村・中山間地振興	1	4.2%
環境保全	3	12.5%
災害救援	3	12.5%
地域安全	2	8.3%
男女共同参画社会の形成の促進	1	4.2%
子どもの健全育成	8	33.3%
情報化社会の発展	1	4.2%
経済活動の活性化	6	25.0%
職業能力の開発・雇用機会の拡充	4	16.7%
消費者保護	1	4.2%
その他	6	25.0%
合計	70	

問3. 団体が設立された年を教えてください。

回答	回答数	割合
1年以内	3	13.0%
2～4年以内	5	21.7%
5～7年以内	3	13.0%
8～10年以内	2	8.7%
11～15年以内	6	26.1%
16年以上	4	17.4%
無回答	1	-
合計	24	100.0%

問4. 団体に所属する学生人数を教えてください。

回答	回答数	割合
10人未満	3	13.6%
10～19人	7	31.8%
20人～39人	4	18.2%
40人～79人	4	18.2%
80人以上	4	18.2%
無回答	2	-
合計	24	100.0%

問5. 団体が活用している広報媒体について、あてはまるものすべてを選んでください。(複数回答可)

回答	回答数	割合
団体ホームページ	8	33.3%
団体広報誌・活動報告書	2	8.3%
チラシ	11	45.8%
Facebook	5	20.8%
Instagram	19	79.2%
X (旧 Twitter)	10	41.7%
YouTube	5	20.8%
金沢市ホームページ	4	16.7%
教育機関(学校)のホームページ	4	16.7%
マスコミ(テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等)	2	8.3%
その他	2	8.3%
合計	72	

問6. ミーティングや会議・練習等、団体の対内的な活動の頻度について、あてはまるもの1つを選んでください。

回答	回答数	割合
1週間に1回以上	14	60.9%
2週間に1回程度	6	26.1%
月に1回程度	3	13.0%
無回答	1	-
合計	24	100.0%

問7. イベント開催や行事参加等、団体の対外的な活動の頻度について、あてはまるもの1つを選んでください。

回答	回答数	割合
1週間に1回以上	1	4.5%
2週間に1回程度	1	4.5%
月に1回程度	9	40.9%
数カ月に1回程度	11	50.0%
無回答	2	-
合計	22	100.0%

学生団体の活動分野としては、「まちづくり」が3割で、次いで「社会教育」「学術・文化・芸術・スポーツ」「子どもの健全育成」と続いている。

1年以内、2～4年以内は「協働のまちづくりチャレンジ事業」「やかたコンシェルジュ」等の採択団体が多数を占めており、学生団体活動の裾野拡大に寄与している。

8～10年以内、11～15年以内の団体は、学生のまち市民交流館ができた頃の学生団体や、大学等のサークルが多い。

団体の人数については、「10～19人」という回答が3割程度である。

団体活動広報媒体は、「Instagram」が8割弱、次いで「X（旧Twitter）」、「チラシ」と続いており、オンラインでの広報に主力を置きつつ、紙媒体での広報を試みている傾向がある。

活動頻度については、団体内の活動頻度は「1週間に1回以上」が6割であり、対外的な活動頻度は「数カ月に1回程度」が5割を占めている。

団体の活動における課題などについて

問8. 団体が感じている課題について

現在、あなたの団体の活動における課題について、最も課題に感じている上位3つを以下の選択肢から教えてください。（複数回答可）

回答	第1位	第2位	第3位	合計
新たなメンバーが増えない	4	1	0	5
主要メンバーのなり手がいない	3	1	0	4
活動資金不足	6	3	3	12
団体の認知度不足・イベント周知	5	7	4	16
会議等、対内的な活動場所の確保	0	3	1	4
イベント等、対外的な活動場所の確保	2	2	5	9
その他	1	1	1	3
あてはまるものはない	1	1	2	4
合計	22	19	16	57

問9. 【問8で1～8のいずれかを選択された方へ】

問8で答えた課題について、行政からのどのような支援があれば良いと感じていますか。

それぞれの課題について、あてはまるものすべてを選んでください。（複数回答可）

回答	全体回答数
助成金などの財政的な支援	13
行政からの、各学生団体活動に関する情報発信	24
対話や交流の場の創出（交流会等）	15
研修・講座による、メンバーの能力向上	5
専門家などへの相談体制	5
貸館など活動の場の提供	12
行政職員や地域の大人など、情報交換相手となり得る人の紹介	8
合計	82

※全体回答数は、問8で質問した課題第1位、第2位、第3位に対し、それぞれ回答しているものを合計したもの。

団体の課題については、全体では「団体の認知度不足・イベント周知」が最も多く、次いで「活動資金不足」、「イベント等、対外的な活動場所の確保」となっている。

また、全体では低いですが、課題の第1位として、「新たなメンバーが増えない」という回答も一定数ある。

これに対する行政からの支援希望として、「行政からの、各学生団体活動に関する情報発信」最も多く、次いで「対話や交流の場の創出（交流会等）」、「助成金などの財政的な支援」、「貸館など活動の場の提供」という回答がある。

## 協働について

### 問 10. 他団体との協働の経験について

これまで他団体との協働による事業の経験はありますか。

回答	回答数	割合
ある	15	68.2%
ない	7	31.8%
無回答	2	-
合計	24	100.0%

### 問 11. 【問 10 で「1. ある」と回答した場合】協働の相手先

協働したことのある相手先について、あてはまるものすべてを選んでください。(複数回答可)

回答	回答数	割合
同じ分野の学生団体	9	60.0%
違う分野の学生団体	5	33.3%
町会その他の地域団体	7	46.7%
公益的活動をする市民活動団体	5	33.3%
企業	8	53.3%
行政	4	26.7%
その他(社会福祉協議会)	1	6.7%
合計	39	

回答者 n=15

### 問 12. 【問 10 で「1. ある」と回答した場合】つながったきっかけ

協働するにあたって、相手方とつながった・知り合ったきっかけは何ですか。(自由記載)

知り合いを通じて、SNSを通じて、実際の対話を通じて、など

ボランティア活動を行う上で施設の予約などの手助けをしていただいた。防災のイベントで繋がった

金沢市からの周知(学生等雪かきボランティア)で田上町校下の方々と地域貢献の機会を頂いた。

当クラブの協賛金依頼業務の際に、もりの里商工組合の方々とつながる機会を頂き、地域清掃活動「浅野川七つ橋渡りと清掃活動」、山側環状の美しい景観を創る会さんの「花いっぱい運動」、浅野川愛護協会さんの「浅野川沿い清掃活動」に参加させていただいた。

当団体主催のイベントに参加された方が地域おこし協力隊になって、まちあるきイベントの依頼をいただいた。

また、団体の各メンバーが関わりを持つ企業や商店街組合などの団体とのファシリテーターとなってつながる機会も多い。

市民協働推進課事業(アクションキャンプ)

私たちの活動を何らかの形で知って声をかけてくださった

毎年行われる行事への参加

当団体が開催するイベントにご参加くださった他団体メンバーの方との交流や、当団体メンターの紹介など。

よさこいのイベントの学生実行委員というもので、一緒に会議をした。

昨年から地元の企業さんとリメイクアイテムを開発しました。その企業さんとは少し前から交流があり、昨年実現した事業です。

リメイクアイテムは、商品化し、フォーラスなどのお客さんが多い所で販売会を行うことで、沢山の方に北陸の縫製工場の凄さを沢山の人にしてもらうきっかけになった。

市民交流館の利用

先日行われた参議院選挙(2025年7月20日投開票)の街頭啓発において、金沢市選挙管理委員会を通じて、様々な団体と協働して街頭啓発を行なった。

主に SNS 等での活動からの依頼

自分が団体に入る以前から繋がりがあったため、きっかけについては分からない。

### 問 13. 【問 10 で「1. ある」と回答した場合】協働して良かった点

協働して取り組んだことで、良かった点はありましたか。あてはまるものすべてを選んでください。

(複数回答可)

回答	回答数	割合
対等な立場で協力することができた	9	60.0%
地域課題の解決など成果を上げることができた	5	33.3%
お互いの専門性を活かすことができた	4	26.7%
予算の負担軽減につながった	3	20.0%
お互いの立場など相互理解を図ることができた	11	73.3%
お互いに補完し合い、役割分担を図ることができた	3	20.0%
事業目的・目標を共有できた	5	33.3%
相手の意識が変わった	2	13.3%
コミュニケーション（情報共有や対話等）が十分に取れた	11	73.3%
その他	1	6.7%
合計	54	

回答者 n=15

協働については、7割弱の団体が「経験がある」と答えている。これは、市民協働推進課事業に関連のある学生団体を対象としたアンケートであるため、比較的高い水準が出ていることに留意したい。

協働したことのある団体は、「同じ分野の学生団体」が6割、次いで「企業」（5割）「町会その他地域団体」（4割強）という回答があった。

また、協働するにあたって、つながったきっかけとしては、市の事業に参加したことによるものもあるが、学生団体主催の事業を知った他の団体等が声掛けをし、繋がっていった事例も見受けられる。

協働して良かった点として、「お互いの立場など相互理解を図ることができた」「コミュニケーション（情報共有や対話等）が十分に取れた」という回答がいずれも7割を超えており、次いで「対等な立場で協力することができた」が6割と、協働に関する意識の浸透が見受けられる。

問 14. 【問 10 で「2. ない」と回答した場合】協働の必要性

団体の活動をする上で、他団体との協働が必要だと感じることはありますか。

回答	回答数	割合
ある	4	57.1%
ない	3	42.9%
合計	7	100.0%

問 15. 【問 14 で「1. ある」と回答した場合】協働希望の相手先

協働が必要だと感じる相手先について、あてはまるものすべてを選んでください。(複数回答可)

回答	回答数	割合
同じ分野の学生団体	2	50.0%
違う分野の学生団体	2	50.0%
町会その他の地域団体	2	50.0%
企業	2	50.0%
行政	2	50.0%
合計	10	

回答者 n=4

問 16. 【問 14 で「1. ある」と回答した場合】協働の必要性

他団体等との協働が必要だと感じる理由について、あてはまるものを1つを選んでください。

回答	回答数	割合
他団体とノウハウ・情報を共有できるため	2	50.0%
協働することに意義があるため	1	25.0%
活動の機会・場소가確保できるため	1	25.0%
合計	4	100.0%

回答者 n=4

問 17. 【問 14 で「1. ある」と回答した場合】協働にむけて

他団体等と協働に向けてつながるためには、何が重要だと思いますか。あてはまるものすべてを選んでください。(複数回答可)

回答	回答数	割合
他団体の活動内容や実績などの情報	2	50.0%
自団体の課題や PR などの情報発信	2	50.0%
他団体と交流できる場	3	75.0%
他団体と活動内容などを共有できる仕組み	3	75.0%
団体同士をつなげるコーディネーター	1	25.0%
他団体へ直接アプローチできる仕組み	1	25.0%
合計	12	

回答者 n=4

問 18. 【問 14 で「2. ない」と回答した場合】協働が不要の理由

他団体等との協働が必要ないと感じる理由について、あてはまるものすべてを選んでください。

(複数回答可)

回答	回答数	割合
自分たちで活動が完結しているため	2	66.7%
他団体等との調整が困難なため	2	66.7%
合計	4	

回答者 n=3

協働については、3割の団体が「経験がない」と答えており、今後協働希望する相手先については、幅広く多様な協働したいという意識が見られる。

今後協働していくために必要なものとして、「他団体と交流できる場」「他団体と活動内容などを共有できる仕組み」への希望が高い。

活動について、参考ききとり

問 19. 事業やプロジェクトを企画・実施する際に行っていること

事業やプロジェクトを企画・または実施する際、以下にあてはまるものはありますか。

あてはまるものすべてを選んでください。(複数回答可)

回答	回答数	割合
団体メンバーから自発的に企画案・事業案が出てくる	20	83.3%
学校側からテーマの提示・設定がある	3	12.5%
市役所等の行政から決まった内容の依頼がある	6	25.0%
市役所等の行政の応募テーマに沿って団体メンバーと考えている	3	12.5%
他学生団体同士で情報交換し、参考にしている	4	16.7%
社会人や行政職員と意見交換し、参考にしている	8	33.3%
学生のまち市民交流館コーディネーターに相談し、参考にしている	4	16.7%
合計	48	

学生団体がプロジェクトや企画を実施する場合、「団体メンバーから自発的に企画案・事業案が出てくる」という回答が8割を占めており、自主的な発案による活動が主軸であり、次いで「社会人や行政職員と意見交換し、参考にしている」、「市役所等の行政から決まった内容の依頼がある」の順番となっている。

## 問 20. 学生団体活動や市民協働について

その他、ご意見や課題感、感想などがあれば自由にお書きください。（自由記載）

テストや所属団体以外での課外活動など、各メンバーに様々な予定が入っており、十分な活動ができないことがある。メンバーには各々の「好き」「得意」を活かしながら無理なく活躍してほしいと願っているが、そもそものMTG日程調整が難しかったり（→意思決定が遅くなる、コミュニケーションが取れない）、時間があるメンバーに仕事が偏りがち（?時間がないメンバーは活動から疎遠になりがち）だったりするため、どうしたら良いだろうかと課題に感じている。

恐ろしい速度で進みつつある我が国の少子化（人口減少）、特に石川県を含む地方ではその問題が一層深刻化しています。一方、全ての学生が都市一極化に賛同しているかと言えば決してそうではなく、ふるさと石川の魅力伝達不足も大きな課題となっています。

当団体に所属する学生も大半が都市圏からの進学組であり、先輩方から受け継ぐ活動を通して石川県の魅力を知ることが出来、実際に北陸に就職した先輩も多数です。

たとえ大河の一滴に過ぎずとも石川県の魅力を多くの学生に伝え、ふるさと石川の創生のために活動を続けて参りたいと考えております。

学生団体活動はとても大変なことが多いですが、一つ一つの課題を解決していく達成感と忙しさが楽しくなってきました。

ファッションショーとワークショップを成功させ、装う楽しさや作る楽しさをより多くの人に伝えていける事を嬉しく思います。

引き続き宜しくお願い致します。

団体の支援について、学生会議のような団体は、年度によって、団体としての完成度にばらつきがあるので、行政としても難しいなと感じています。その中で、やる気のある人材の確保に課題を感じています。